

### [3] 最後の文節・

本を一冊読み終わったとき、この文で、読後感に象徴的な感情を印象づける。さらに、登場人物の未来像まで予想させてしまう。貴重な文章だ。

#### (1) 龍の子太郎(松谷みよ子)

こうしてできた、ひろびろとした土地に、人々はあつまり、やがて、見わたすかぎりのたんぼに、こがね色のいねがみのりました。そこで龍の子太郎とあやは、にぎやかなご婚礼の式をあげました。そこではあさまや、あやのじいさまや、村の人たちをよびあつめ、みんなたのしく、しあわせにくらしたということです。

※ よかったねー。主人公も、むらびとも、きつと力を合わせてもっとすばらしい村にしていくのだろうと想像できます。穏やかで、幸せな気持ちで本を閉じるでしょうね。

#### (2) 二十四の瞳(壺井栄)

はるこうろうの はなのえん  
めぐるさかずき かげさして

自分の美声に聞きほれているかのようにマスノは目をつぶってうたった。それは六年生のときの学芸会に、最後の番組としてかのじょが独唱、それによってかのじょの人気を上げた唱歌だった。早苗はいきなり、ますの背にしがみつ、むせび泣いた。

※ 先生と生徒の心のつながりが、凝縮されてこの結びとなっています。美しい余韻が残る表現ですね。

### [4] 一番印象に残った文・・・

読書ノートを書いている子どもの話では、ここを書くとき一番頭をひねる、と言っています。読み直す子どももいます。また、親子で話してみると、それぞれに違いがあるのが面白い。親も自分の年代で変わってくる例も多いと述懐されていました。

#### (1) 小僧の神様(志賀直哉)

某はへんにさびしい気がした。自分は先の日小僧の気のどくなようすを見て、心から同情した。そしてできることなら、こうもしてやりたいと考えていたことを、きょうは偶然の機会から遂行できたのである。小僧も満足し、自分も満足していいはずだ。人を喜ばすことは悪いことではない。自分は当然、ある喜びを感じていいわけだ。ところが、ど

うだろうこのへんにさびしい、いやな気持ちは、何故だろう。ちょうどそれは人知れず悪いことをしたあとの気持ちにかよってくる。

※ そうです。だれでもこれと似たような体験をしていますよね。毎日の生活の中には、理屈では割り切れない心のひだの小さな動きがたくさんありますが、作者のようにすくいとってみたいものです。

### [5] じっくり聞く・・・心の交流を

読書ノートを書き続けられるかどうか。それは親の対応にかかっています。子どもが書き終わったら、親御さんはお子さんの読むのをしっかり聞いてやってください。できれば、ご両親がそろっているときが一番いいのですが。

- ① しっかりと聞く・・・心から聞いているよという態度を示す
- ② 感謝する・・・忘れていたことを思い出させてくれた。新しい本の知識を得た。自分とは違う読後感に気付かせてくれた。
- ③ 誉めて励ます・・・感謝して、また聞きたいと希望する。

### [6] ペンを執ることが好き・・・書く喜びを持つ人生

いきなり文を書けとなれば大きな抵抗があるのは当然です。ところが、読書ノートはただ書き写すだけですから抵抗はありません。ペンを走らせているうちに、作者の心血を注いだ文にとらわれてしまいます。ああ、この語彙を使ってみよう。このような文を作ってみよう。書きながら、自分の心の誘いに乗り始めるのです。日記でも、学校の作文でも、書くのが喜びになってきます。まさに「筆執ればもの書かる」です。

米田さんはゼミへの通学に往復2時間かかりました。この時間が読書の時間になりました。2日に1冊の割合で読破したことを、読書ノートで知りました。予備校の先生は既知の方でしたので、米田さんの論文練習のファイルを見せてもらいました。初めの小学生の文から、最後は新聞の論説委員ばりの文になっていました。3月のある日、米田さんはT大文一の合格証書をもって、にこやかに相談室を訪れました。

#### 海外・帰国子女教育専門機関 JOBA

〒145-0064 東京都大田区上池台3-39-9  
Tel:03-5754-2240 Fax:03-5754-2241  
<http://www.jolnet.com/>



張江先生の「海外の家庭で出来る日本語の教育法」、今回は「読んで・書いて・語って」日本語の総合力を高める「読書ノート」のお薦めです。

自分が読んだ本の書き写しに、工夫を加えた方法の紹介です。「学ぶ」の語源「まねる」の言葉通り、日本語の書かれた文章の書き写しは、作文力の向上に有効です。特に、海外で日常的に書かれた日本語に接する機会の少ない子どもにとっては、作文だけではなく、読解力の向上に大いに役立つと、私の指導経験からも主張できます。

ひとつ付け加えるならば、現地の学校での勉強と家庭環境が、ここで紹介される生徒の場合も成功の鍵になっていることを確認してください。



#### 張江 幸男 (はりえ ゆきお)

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問

前全日本空輸(株)海外子女教育相談室長、元三菱商事(株)相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北日本人学校教頭